

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月23日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人恵仁会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	鹿児島県鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成27年10月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年11月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵仁会の事業所で最も小さな事業ではあるが、母体の鹿屋長寿園と池田病院に囲まれながらも、畑があり季節を感じながら散歩をし、野菜を収穫している。畑は近隣の人のお借りし、家庭の味を大切に食支援もに努めている。また、認知症の支援にも力を入れ、家族とのコミュニケーションや実習生の受け入れ等で、認知症の理解を深めて頂く努力をしている。利用者様は重度化はしているが職員は連携が取れ笑顔が絶えない。最後まで支えられる様に職員も常に研修会等に参加しながら、隣接する訪問看護ステーションとの連携や職員のスキルアップで、ターミナルケアも行っている。緊急時は医師の往診も頂ける環境にあって申し込み者も多い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は隣接した特別養護老人ホームや協力医療機関・訪問看護ステーションとの連携が図られ、24時間医療連携体制が整っている。看取りについても主治医や関係者が連携して、本人や家族の意向を確認しながら支援する体制ができている。
- ・災害時の相互協力関係も構築されている。
- ・町内会に加入し、地域行事や清掃などに積極的に参加する一方、法人の行事にも地域の人々が参加するなど日常的に交流している。
- ・利用者の楽しみを把握し食生活を大切にしている。天気の良い日は散歩を日課とし、理学療法士のアドバイスを受けながら機能の維持を図っている。
- ・管理者は職員育成に力を入れ、意見や提案を積極的に反映させている。職員は勤務年数が長く離職者も少ない。職員間のコミュニケーションも図られ家族からの信頼が厚い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を職員と共有し、生活される人、それぞれの立場に立ち、地域に密着した運営を行っている。	開設当初からの独自の理念で事業所内に掲示している。申し送り時や会議等で振り返り、話し合いを行い、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に参加することで、地域の困りごととも理解出来ている。認知症の困りごとに対しては適切なアドバイスが出来ている。	町内会に加入し、地域の行事や清掃活動に積極的に参加している。法人の行事には多くの地域住民の参加がある。小学校との交流、高校・短大・職業訓練校の実習生、一般のボランティアの受け入れなども行い、地域への福祉の発信源としても関わり、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町内会長や地域の班長・運営推進員さんと交流を図りながら認知症に対する理解を得られる様な企画を行い、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の中で地域の認知症でお困りの方の情報提供を受ける事もある。地域包括支援センターへ繋ぐこともある。</p>	<p>会議は定期的に行っている。事業所や利用者の状況・外部評価の報告等を行い、参加者からも地域の情報を聞き、意見交換を行っている。避難訓練にも参加してもらっている。会議の情報や助言を職員で共有してサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市の高齢福祉課や地域包括支援センターとはインターネットでやり取りしている。研修会も頻りに開催される為、参加し、知識の吸収に努めている。</p>	<p>市担当者とは日頃から、メールや窓口に出向き、利用者の相談や情報を交換してアドバイスを貰っている。市主催の研修会やサポーター養成講座、徘徊模擬訓練などにも積極的に参加し、連携は密に取っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠しないのは勿論。開所以来、身体拘束は行っていない。自分達の言動を振り返る為にも身体拘束防止委員会を設け、毎月身体拘束に関する確認は行っている。</p>	<p>身体拘束防止委員会を設け、事例や課題に基づいてミーティング等で振り返り、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても日々確認し支援している。玄関は昼間は施錠せずに、外出傾向の利用者には同行するなど、職員間の連携で安全な生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所全体で年に1回は虐待防止法の研修に参加する義務があり、参加している。また、虐待や身体拘束については身近な話題は事務局より配信がある。その月のミーティングで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度に関する研修は地域包括支援センターが主催して行う研修には必ず1名は参加している。本年度は家族からの相談もなかった。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際、重要事項説明を行い、契約を締結している。利用料金等の改正の際は家族会を開催し、説明と同意を得ている。また面会時は家族からの要望をお聞きする雰囲気を常に作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置し、相談苦情委員会を設けている。家族からの意見がある時は法人内の苦情相談委員会で報告するシステムになっている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議・アンケートもそのよい機会となっている。遠方の家族には電話や便りを利用している。出された意見や要望等は職員で話し合い、法人の全体会議にも報告して運営に反映させている。意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日常的に職員の意見は尊重している。また、毎月ミーティングで、在宅会議の内容を報告している。在宅会議の中は意見や提案をする場となっている。</p>	<p>管理者は、職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。提案によりトイレを増設したり、リクライニング車椅子を購入するなど反映させている。日頃から職員とのコミュニケーションを図り、職員の意向や希望も個別に相談に乗っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年に2回は自己評価の提出を行っている。職員との面接の中で意見を吸い上げ、その能力に応じた昇給、昇格となっている。その為に資格取得者も多い。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数に応じた研修に参加することで職員の能力を高める環境作りに努めている。職員全員がお互いを尊重しているために学んだ事に耳を傾け、研修に参加するごとにケアの質の向上が認められている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、セミナーや交流会を開催している。積極的に参加し。交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者様とその家族にグループホームの特性を説明し、納得して頂いてからの入所となっている。本人が不安を感じる事のないように居室のレイアウトにも配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用される時はアセスメントを十分行い、本人、家族の要望に添える様に双方話しあっている。その後の生活の中での困りごと等も、密に相談させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される本人の生活歴や希望性格の把握に努め、安心して生活出来るように言葉、笑顔、仕草に努めている。そのようなケアプランとなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は模擬の家族である事から負担にならないお手伝いをお願いしている。必ず、感謝の言葉を伝えている。本人は達成感を味わい、笑顔があふれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来宅時はお茶でもてなすとともに、話し相手にもなっている。そうすることで家族の理解を得られ、ボランティアに来てくださる家族が多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来宅時はお茶でもてなすとともに、忘れられる利用者様の為に写真に納めている。また自宅に帰られる方に関しては積極的に援助しているが、次第にふれあいが自宅になり、すぐに帰ってこられる。	馴染みの理美容院の利用や買い物店に気軽に通えるよう車椅子での対応をしている。知人や友人の訪問の際にはお茶を出すなどして、継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で定期的に自宅に帰る利用者の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格を把握し、お互いが気を使わないように席には配慮している。性格の合う人で会話が弾む光景がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても関係性が続くことが多い。病院に入院された方に関しては洗濯や買い物も支援は出来る範囲で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で思いを伝えられる方に関してはその思いに添うように援助している。職員は常にパーソンセンタードケアを頭に入れているために本人の思いに添えるケアに徹している。	日々の生活の中で様子を観察し、言葉や表情などから暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合、家族からの情報を得て、連絡帳も活用し、利用者の視点に立って職員間で話し合い、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や過去の暮らしや職業を知ることで良いケアの提供が出来る事から色々なところから情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人本位と自立支援を目指しているが自立支援も時と場合により、本人に苦痛を与える事もあるので十分に配慮している。水分、食事、排泄、睡眠の把握は必要である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては本人、家族の意見に耳を傾けながら作成している。モニタリングは毎月ミーティングを行い、職員の意見を吸収している。	本人や家族の意向を踏まえて、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。遠方の家族には計画書を郵送して同意を貰っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は大切にしている。24時間の状況が解る記録となっている。1枚の記録とバイタル表で本人の健康状態が把握できるようになっている。その為に記録は細かい数字もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様はその時々に応じて少しずつ変化している。その変化を見逃さないで、それぞれの専門家に相談することでサービスの質の低下を防ぎ、生活の質が維持出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や法人の行事を大切にすることで本人の生きる力を引き出している。普段あまり食べられない方も外で食べると見違えるように食べられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の思いを大切にしている。池田病院が隣接しているために、紹介状を頂き主治医が変わる事があるが紹介状をきちんと書いて下さる。	本人や家族の希望を聞きかかりつけ医の受診を支援している。受診は職員が付き添い家族と連携している。皮膚科や眼科・耳鼻科などの他科受診は家族が同行している。神経内科の訪問診療や訪問看護ステーションの週1回の訪問など、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師との連携で週1回の訪問時、疑問に思う事は質問出来る環境にある。その為に職員も知識を吸収出来ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様の入院時は情報提供に努めている。認知症の為に早期に退院される方もいらっしゃるがその際は職員が出来るリハビリに着いては教えて頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様の今後の意向については随時お聞きしている。大半が「最後まで」を望まれる為に職員は覚悟と知識の吸収に努めている。</p>	<p>契約時に「重度化及び看取り対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。終末期には状況変化に伴い、随時本人や家族の意向を確認している。主治医や訪問看護師と連携した医療機関とのチームを組んで支援に取り組んでいる。職員も知識や技術の取得を研鑽している。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急処置やAEDの使い方に関しては法人内での研修もあり、全員参加が義務付けられている。職員は実践力を付けるために真剣に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の訓練を、消防署指導のもとで1回、1回は自主で昼夜想定避難訓練を実施している。</p>	<p>災害対策として、消防署の指導のもと年1回、自主で地域の人やボランティアの人たちと年1回、昼夜想定避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置されている。隣接の法人事業所や地域住民との協力体制もできている。災害時は米や水を3日分を目安に備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の周辺症状は職員の声かけで緩和される事を周知している。特にプライドを傷つける声掛けは後のケアを困難にする為注意している。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。名前は、「さん」付けで呼び、個々に対応している。新人教育には特に力を入れている。笑顔で毎日暮らせるように人間関係の構築にも心を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切にしながら援助しているが、思いを伝えられない方に対してはその表情から読み取る事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の大まかな流れはあるがその人の体調や精神状態に合わせるケアの提供に努めている。昼夜逆転は本人も大変なのでリズムのある生活の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	常に清潔に努め、自分で伝えられる人に関しては本人の思いを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は季節感を大切に食べやすく、本人の思いを大切にしている。手伝いを頂ける人には行動を共にする。巻きずし。イナリ。おはぎ等は目の前で作る事で作る楽しさと食べる楽しさを共有している。	菜園の野菜や旬の食材で、利用者の希望に添った献立を工夫している。利用者も可能な範囲で準備や後片づけを職員と一緒にしたりしている。刺身や寿司などの行事食、外食など楽しみなものになるよう工夫している。家族会や行事には家族も交えて食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員はそれぞれの必要水分量を把握しながら水分を取って頂く努力をしている。どうしても飲めない方に関しては好みの飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かせない。職員は口腔ケアが病気を予防することを理解している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ代が自己負担の為に一人ひとりの排泄パターンを理解し、積極的にトイレ誘導を行い、BPSDとの関係性についても取り組んでいる。	排泄チェック表でパターンや習慣を把握し、誘導や声かけの工夫で昼間は基本的にトイレでの排泄を支援している。排泄後の清潔保持やオムツを減らす取り組みで排泄の自立を支援している。改善された事例があり、家族の喜びも大きい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	大半の利用者様は便秘である。その事を理解し、繊維の多い食事やお茶で工夫している。また、立てる人、歩行出来る人に合わせて下肢の運動にも力を入れ、腸の蠕動の活発化に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は全利用者様の楽しみの一つである。その人の能力に合わせてバスチェアも3種類備え、能力に応じた対応を図っている。	入浴は基本的に週3回であるが、利用者の体調や希望に合わせて、時間帯も柔軟に対応している。希望があれば毎日入浴も可能である。重度化がすすみ、リフトの導入や介助員3人体制にするなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を誘うために日中は散歩や歩行練習にも力を入れている。夜間なかなか寝付けない人は職員との会話や洗濯物をたたむ手伝いをされる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の薬について興味を持ち目的や副作用を理解している。その為に必要ないと思われる薬については医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様の楽しみごとを理解しその能力により楽しみごとを提供している。買い物、散歩、ピアノ、歌等。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>車椅子の利用者様が多く、車での外出がめっきり減っている。母体の協力が無いと外出出来ない状況にあるが、家族やボランティアさんの力をお借りしながら、お天気の良い日は近くの畑への散歩は日課となっている。</p>	<p>日常的に天気の良い日は、家族やボランティアの協力により、車椅子対応で近くの畑や周辺の散歩をしている。計画を立てて花見や初詣等に家族も呼びかけて出かけている。家族の協力で帰宅や外出・外食・墓参にも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の重度化でお金に関心を示される方は少ない。イベントの「まちの市」で外食される時は職員の援助のもと、自分でお金を払って頂いた。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参されている。必要時は援助している。毎月状況を発送し、また、面会を促すこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたタペストリを飾っている。温度湿度の管理は乾湿度計を目安に適切な湿度と温度を保っている。ほぼ毎日散歩をする為に外との気温の差にも配慮している	玄関入り口には季節の花が飾られ、共用空間は明るく換気や採光・温度・湿度に配慮され清潔である。テラスは避難経路としても使用できる。中庭や畳の間があり、ピアノの演奏も楽しめる。壁には利用者の写真や飾りつけがされている。廊下にはソファが多く配置され、思い思いの場所でくつろげる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを置いたりしているが車椅子の利用者様がその椅子に腰かける事は無い。利用者様は自分の場所を理解されてお、違う場所では落ち着かれない状況がある。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が動きやすく、転倒を防ぐ様に工夫している。家族が泊まれる部屋はソファを入れ、ゆったりくつろげる様にしている。	居室はベッドとダンス・室内手洗い場が設置されている。入り口には暖簾が掛けてあり家庭の雰囲気が醸しだされている。テレビや仏壇・衣装ケース・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮されている。家族もくつろげるようにソファなどが準備してある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや非常口にはそれぞれ表示があり、利用者様それぞれの身体能力に応じたポータブルトイレや介護用品を駆使している。排泄時もそれぞれの高さに応じて踏み台を利用されている。可能な限り自立した生活の援助に努めている。</p>			

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない